

## 荒 正人『漱石研究年表』の記述に関して

竹田 正雄

荒正人『漱石研究年表』（以下、Aとする）は、集英社版『漱石文学全集』の別巻として1974年に刊行された。夏目漱石の生涯に関する事項を中心に、日付順に整理するという大変な労作である。小生が愛用しているのは、同書の初版第五刷（1979年6月30日発行）である。

同書には当然のことながら寺田寅彦が数多く登場するが、先般別件で同書を読み直していた時に妙な記述に遭遇した。それは、1911（明治44）年1月5日の以下の記述である。

一月五日（木）、午後、寺田寅彦訪ねてくる。（以下、省略）

寅彦は1909年3月から1911年6月まで留学しているので、この記述は明らかにおかしい。

Aには1984年6月20日に発行された増補改訂版（同じく集英社刊、以下、Bとする）があるので、こちらを確認してみると「午後、寺田寅彦訪ねてくる」の一節はまるまる削除されている。ではどうなったかというところ、Bには翌1912（明治45）年1月5日に以下の記述が追加されている（Aには1912年1月5日の記述自体がなかった）。

一月五日（金）、アイ、二、三日前から高熱を發す。午後、寺田寅彦・森田草平来る。

これは、同日の寅彦日記にある「午後夏目先生を訪ふ。先生の四女も二三日前より高き熱ありさめずといふ」との記述にも一致する。要はAの間違いに気が付き、あるいは他者からの指摘を受け、Bで訂正したということなのだろう。念のため漱石、寅彦それぞれの日記を確認したが、1月5日に寅彦が漱石を訪問した日は、1912年以外には見当たらない。

もしかしたら寅彦研究家からの指摘ではないかと想像するのも楽しいし、その可能性が高いとも思っている。

（参考文献）

荒正人『漱石研究年表』集英社 1979年6月30日（第五刷）

荒正人『増補改訂 漱石研究年表』集英社 1984年6月20日

『定本 漱石全集第19巻』岩波書店 2018年4月10日

『定本 漱石全集第20巻』岩波書店 2018年6月12日

『寺田寅彦全集第11巻』岩波書店 1986年6月5日（第三刷）

『寺田寅彦全集第12巻』岩波書店 1986年7月7日（第二刷）